

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

がん患者の心のケア及び医療相談等のあり方に関する研究

平成 16 年度～18 年度 総合研究報告書

主任研究者 山口 建

平成 19(2007)年 3 月

目 次

I. 総合研究報告

がん患者の心のケア及び医療相談等のあり方に関する研究 山口 建	・・・・・・・・ 1
------------------------------------	------------

II. 研究成果の刊行に関する一覧表	・・・・・・・・ 11
--------------------	-------------

総合研究報告書

がん患者の心のケア及び医療相談等の在り方に関する研究

主任研究者 山口 建 静岡県立静岡がんセンター 総長

研究要旨

我が国のがん体験者数は、急速な高齢化社会の訪れの中で増加し続け、現時点で約300万人、2015年には530万人に達すると推定されている。患者らは、診療過程で、様々な不安、悩み、負担にさらされるが、現在のがん医療の中で、それらを和らげる十分な情報提供がなされているとは言い難い。がん患者や家族に必要な情報には、その患者自身の病状に関する“診療情報”、疾病の治療・ケアに関する“医学情報”、患者・家族が抱える悩みや負担を解消するための“生活支援情報”などがある。“診療情報”は医療機関で患者に提供され、“医学情報”は医療機関や書籍やWEBで、また、“生活支援情報”は医療技術者や医療相談などの対話を通じて提供されることが多い。このうち、生活支援情報の提供は、医療機関の相談窓口や電話相談で実践されるのが理想であるが、我が国の現状では相談窓口の整備は緒に就いたばかりであり、相談窓口の担当者にとっても、相談を進めるのに必要なマニュアル、情報、ツールの整備は十分とは言えない。

本研究では、かつてない規模で実施された「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査」の結果と静岡がんセンターのよろず相談で収集された事例をもとに、がん患者や家族の悩みや負担を“静岡分類”で分類し、「がん患者の悩みデータベース」の構築に努めてきた。

研究初年度には、すでに実施された「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査」に基づき作成された報告書の概要版を作成し、全国に配布し、WEB上でも公開した。

研究第2年度には、上記の実態調査で収集された総計二万数千件のがん患者の悩み、負担から「がん患者の悩みデータベース」構築作業を開始した。この過程で、このデータベースとがんに関する医療相談を実施している静岡がんセンターのよろず相談のデータベースを比較することによって、従来、暫定的に用いてきた“静岡分類”が妥当であることを確認した。

こうして構築された「がん患者の悩みデータベース」に基づき、「がんよろず相談Q&A第1集—医療費編・経済就労編」、「第2集—肝細胞がん編」、「第3集—抗がん剤治療・放射線治療と食事編」も作成され、その一部は、「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査報告書 概要版」とともに、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語に翻訳され、全国に配布された。

研究第3年度には、「がん患者の悩みデータベース」の完成をみた。このデータに助言集を加え、さらに、がん関連図書、がんよろず相談Q&A集、「学びの広場」小冊子、地域医療サービス一覧なども加えた、利用者重視の包括的な生活支援情報データベースをインターネット上で公開する“WEB版がんよろず相談システム”のプロトタイプも公開された。このシステムは、1) 医療従事者や行政担当者が、がん患者の悩み・負担を把握し、2) 患者自身や家族が、同じ悩みを持った数多くのがん患者の存在を知ることによって孤独感を癒し、さらに、一部作成済みの助言を活用して、問題解決を図り、3) 一般社会が、がん患者らの悩み・負担の実態を知ること、等に役立てられる。その結果、がん患者や家族とともに、がん診療連携拠点病院の相談支援センター、かかりつけ医、市町村・保健所・患者会・患者支援団体の相談窓口を担当する保健師やケア・コーディネータにとって、患者・家族支援のための強力な武器になることが期待される。

分担研究者

1. 山口 建 静岡県立静岡がんセンター 総長
2. 澤田茂樹 独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 医長
3. 磯部 宏^{#11} 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター 医長
*12 K K R 札幌医療センター
腫瘍センター センター長
4. 柴 光年 国保直営総合病院君津中央病院
医務局次長
5. 谷尾吉郎 大阪府立急性期・総合医療センター
部長
6. 矢野篤次郎 佐賀県立病院好生館 部長
7. 加治正英 富山県立中央病院 医長
8. 望月 泉 岩手県立中央病院 科長
9. 江上 格^{#13} 日本医科大学付属多摩永山病院
部長
*14 鶴巻温泉病院 副院長
10. 小切匡史 市立岸和田市民病院
副院長兼部長
11. 土屋嘉昭 新潟県立がんセンター新潟病院
部長
12. 田中屋宏爾 独立行政法人国立病院機構岩国医療センター 医長
13. 謝花正信 松江市立病院 部長
14. 小関万里 独立行政法人国立病院機構呉医療センター 部長
15. 光山昌珠 北九州市立医療センター 副院長
16. 原 信介 佐世保市立総合病院 診療部長
17. 石田裕二 静岡県立静岡がんセンター 部長
18. 堀越泰雄 静岡県立こども病院 室長
19. 佐々木常雄 東京都立駒込病院 副院長
20. 永井宏和 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター・臨床研究センター
部長
21. 坂本 茂 麻生飯塚病院 副院長兼部長
22. 関口 勲 栃木県立がんセンター 医長
23. 菊地 惇 山形県立がん・生活習慣病センター
副所長
24. 木村秀幸 岡山済生会総合病院 副院長兼
ホスピス長
25. 矢花 正 山田赤十字病院 部長
26. 大野真司 独立行政法人国立病院機構九州
がんセンター 医長
27. 長井吉清 宮城県立がんセンター研究所
部長
28. 細川 治 福井県立病院 医長
29. 塚越俊夫 群馬県立がんセンター 部長
30. 渡辺 敏 千葉県がんセンター 部長
31. 坂井 隆 独立行政法人国立病院機構
三重中央医療センター 副院長
32. 大倉久直 茨城県立中央病院 病院長
33. 山下浩介 神奈川県立がんセンター 医長
34. 須賀昭彦 静岡県立総合病院 医長
35. 柏木雄次郎 大阪府立成人病センター
部長
36. 田伏克惇 独立行政法人国立病院機構大阪南
医療センター 診療部長
37. 金岡俊雄 日本赤十字和歌山医療センター
副部長
38. 加藤 誠 成田赤十字病院 病院長
39. 田中方士 総合病院国保旭中央病院 部長
40. 龍沢康彦 石川県済生会金沢病院 副院長
41. 高橋郁雄^{#5} 独立行政法人国立病院機構福岡
東医療センター 医長
*6 松山赤十字病院 部長
42. 野口和典 大牟田市立総合病院
病院長兼研究研修部長
43. 渡辺洋一 岡山赤十字病院 部長
44. 井上賢一 埼玉県立がんセンター 副部長
45. 石川睦弓 静岡県立静岡がんセンター研究所
部長
46. 小池眞規子 目白大学人間社会学部 教授
47. 高田由香 静岡県立静岡がんセンター 主任
48. 柿川房子 新潟県立看護大学文学部社会学科
教授
49. 廣瀬弥生 静岡県立静岡がんセンター副主任
50. 北村有子 静岡県立静岡がんセンター研究所
技師
51. 天野功二^{#1} 静岡県立静岡がんセンター 部長
52. 川浦幸光^{#2} 石川県済生会金沢病院 副院長
53. 定村伸吾^{#3} 麻生 飯塚病院 診療部長
54. 本郷輝明^{#4} 浜松医科大学付属病院 助教授
55. 安井義政^{#7} 独立行政法人国立病院機構岩国
医療センター 医長
56. 塚越俊夫^{#8} 群馬県立がんセンター 部長
57. 田中佳克^{#9} 大阪府立成人病センター 部長
58. 吉川 澄^{#10} 大阪労災病院 部長兼副院長

*1 平成16年4月1日～平成17年3月31日

*2 平成16年4月1日～平成17年3月31日

*3 平成16年4月1日～平成17年3月31日

*4 平成16年4月1日～平成17年3月31日

*5 平成16年4月1日～平成17年3月31日

*6 平成17年4月1日～平成19年3月31日

*7 平成16年4月1日～平成17年10月31日

*8 平成16年4月1日～平成18年3月31日

*9 平成16年4月1日～平成18年3月31日

- *10 平成 16 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日
- *11 平成 16 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日
- *12 平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日
- *13 平成 16 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日
- *14 平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

A. 研究目的

我が国のがん体験者数は、急速な高齢化社会の訪れの中で増加し続け、現時点で約 300 万人、2015 年には 530 万人に達すると推定されている。患者らは、診療過程で、様々な不安、悩み、負担にさらされるが、現在のがん医療の中で、それらを和らげる十分な情報提供がなされているとは言いがたい。がん患者や家族に必要な情報には、その患者自身の病状に関する“診療情報”、疾病の治療・ケアに関する“医学情報”、患者・家族が抱える悩みや負担を解消するための“生活支援情報”などがある。“診療情報”は医療機関で患者に提供され、“医学情報”は医療機関や書籍や WEB で、また、“生活支援情報”は医療技術者や医療相談などの対話を通じて提供されることが多い。このうち、生活支援情報の提供は、医療機関の相談窓口や電話相談で実践されており、それが理想だが、我が国の現状では相談窓口の整備は緒に就いたばかりであり、相談窓口の担当者にとっても、相談を進めるのに必要なマニュアル、情報、ツールの整備は十分とは言えない。

がん患者・生存者の心のケア及び医療相談を適正に実践するためには、ハードウェアとしては相談しやすい環境を整備すること、ソフトウェアとしては、がん患者・生存者・家族の悩みや負担を正しく理解し、極めて個人差が大きい相談に対する適切な対応方法を確立し、相談員の技術の向上に努めることが必要である。本研究の目的は、第一に、がん患者らの求める心のケアや医療相談の内容を明確にすること、第二に、医療従事者・行政担当者・患者会・患者支援団体が協働し、具体的な悩みに関する解決方法を探り、心のケアや医療相談を実施する医療技術者に情報として提供し、より精度の高い対応を可能にすること、第三に、同様な情報を、患者体験談として患者・生存者・家族らに提供し、悩みの軽減に役立てること、第四に、患者のニーズに答える新しいがん患者支援システムの整備や新しい医療用具などの開発を進めること、などである。

本研究の成果により、がん患者らの心のケアや医療相談において、全国の医療機関、特に地域がん診療拠点病院の担当者が、個々の患者の悩みや負担をより正確に把握し、適切な回答を成し、患者・生存者・その家族もまた、同病の患者の悩みや負担を知

り、その克服の過程を知ることによって、自らの悩みや負担を和らげることが可能となる。

B. 研究方法

1) がん患者の悩みや負担に関する「静岡分類」の妥当性に関する検討：

「がん患者の悩みデータベース」と「がんよろず相談データベース」とを合わせ検討することによって、従来、暫定的に用いてきた、がん患者の悩みや負担に関する「静岡分類」の妥当性について検証した。

2) 「がん患者の悩みデータベース」の構築：

データベースは、静岡がんセンターのよろず相談で得られた三万数千件のデータを参考に、がん患者の悩みや負担に関する全国調査で得られた二万数千件のデータを一万件まで絞り込み作成された。

3) がん患者の悩みや負担に対する助言の作成：

完成したデータベースに含まれる一件一件の悩みや負担に対し、助言の作成に努めた。

4) 「がんよろず相談 Q&A 集」、「学びの広場成果集」、「がん医療 DVD 集」の作成：

「医療費編・経済就労編」、「肝細胞がん編」、「抗がん剤治療・放射線治療と食事編」などの Q&A 集を作成し、一部については 4 カ国語への翻訳を進めた。作成にあたっては、実態調査の結果とともに、静岡がんセンターにおける「がんよろず相談」での相談結果も参考にし、実際に相談を担当しているソーシャルワーカーや医師や看護師が執筆し、全国のがんの専門家や患者会や支援団体の意見も取り入れた。また、がん患者や家族に生活支援情報を提供する「学びの広場」の成果集、がん医療に関わる講演を録画した「がん医療 DVD」等の作成を行った。

5) 「WEB 版がんよろず相談 Q&A」の構築：

がん患者や家族とともに、がん診療連携拠点病院の相談支援センター、かかりつけ医、市町村・保健所・患者会・患者支援団体の相談窓口を担当する保健師やケア・コーディネータを支援するための WEB 版がんよろず相談システムを構築した。このシステムには、がん患者の悩みデータベース、それに対する助言、すでに発行された生活支援のための冊子、患者図書館情報、地域医療福祉サービス情報が組み込まれている。

(倫理面への配慮)

本年度の研究においては、研究対象者に対する危険性を生じる状況は想定されていない。

C. 研究結果

1) がん患者の悩みや負担に関する「静岡分類」の確立：

静岡がんセンターのよろず相談で暫定的に用いられてきた「静岡分類」と「がん患者の悩みデータベース」とを比較検討することによって、よろず相談での対話、あるいは、アンケート調査によって収集された悩みや負担が、ともに、この分類法により、科学的な分析が可能な状態に分類されることが示され、その妥当性が確認された。この分類では、個々の悩み、負担を、大分類15項目、中分類35項目、小分類129項目、細分類623項目のいずれかに位置づけている。この分類法を用いることによって、がん患者の悩みや負担を科学的に分析することが容易になった。

2) 「がん患者の悩みデータベース」の構築：

「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査」に基づく二万数千件の悩みや負担を、重複を避けて約一万件に整理したうえで、一件を50-100文字に短文化した。これらの悩みや負担は、「静岡分類」で、分類番号を付けデータベース化されている。

3) がん患者の悩みや負担に対する助言集の作成：

本研究においては、一万件の悩みや負担すべてに、対応策や助言を作成することを目指している。すでに、「医療費編・経済就労編」、「肝細胞がん編」、「抗がん剤治療・放射線治療と食事編」については、助言集を作成しており、そのデータは電子化されているため、個々の悩みや負担に対応する助言の対応について整理する作業が進められた。現時点で、全体の一割程度の助言が作成された。

4) 「がんよろず相談 Q&A 集」、「学びの広場成果集」、「がん医療 DVD 集」の作成：

「がん患者の悩みデータベース」に基づき、「がんよろず相談 Q&A 第一集—医療費編・経済就労編」、「第二集—肝細胞がん編」、「第三集—抗がん剤治療・放射線治療と食事編」も作成され、また、患者・家族の生活支援のための「学びの広場」の成果集として、「医療情報をもっと知りたいとき」、「自宅での療養生活の工夫」、「医療費控除のしくみ」、「在宅で受けられる医療・介護サービス」、「がんの治療費、いくら用意すればいいの？」などの小冊子が作成された。さらに、静岡がんセンターの職員が講師を務めたがんに関する講演会内容に基づき、「がん医療

DVD 集」を作成した。これらの冊子や DVD は全国のがん診療連携拠点病院、対がん協会などに配布され、一部の冊子については、「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査報告書 概要版」と並び、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語に翻訳され、全国に配布された。

5) 「WEB 版がんよろず相談 Q&A」の構築：

がん患者・家族の悩みや負担の実態を知り、それを軽減させるための情報を提供する WEB 版がんよろず相談システムの構築を目指し、そのプロトタイプを完成させた。

システムの特徴の第一は、膨大な数にのぼるがん患者の悩みや負担から、利用者が求めるデータを的確に得るため、このデータベースのために開発された独自の検索エンジンを搭載している点である。第二に、基本となるデータベースは、約一万件の「がん患者の悩みデータベース」で対応する助言を同時に掲載している。加えて、がん関連図書、小冊子のデータ、地域医療サービス一覧なども加わり、利用者重視の包括的な生活支援情報データベースが構築された点である。

D. 考察

1) がん患者の悩みや負担に関する「静岡分類」の確立：

従来、がん患者の悩みや負担は、極めて個人差が大きく、科学的な分析の対象とすることは困難と考えられてきた。しかし、「がん患者の悩みデータベース」と「がんよろず相談データベース」を併せ分析することによって、がん患者の悩みや負担についての「静岡分類」を確立することができた。この分類法を用いることによって、がん患者の悩みや負担を科学的に分析することが容易になった。

2) 「がん患者の悩みデータベース」の構築：

本データベースの意義は、第一に、がん患者らの悩みや負担が明確にされること、第二に、医療関係者が悩みや負担の実態を知り、より精度の高い対応を可能にすること、第三に、患者体験談として患者自身の悩みの軽減に役立てること、第四に、患者のニーズに答える新しいツールの開発に役立てることなどである。今回、約一万件のがん患者や家族の悩みや負担が公開されたことは今後のこの分野の科学的な進歩にとって重要である。

3) がん患者の悩みや負担に対する助言の作成：

完成したデータベースに含まれる約一万件の悩みや負担に対する助言の作成は、今後、多大な時間と労力を要する作業となる。しかし、その内容が公開されることによって、全国のがん体験者や医療技

術者が、この作業に協力できる体制が整ったといえる。今後、重要性の高い“心の問題”、“緩和医療”、“栄養”、“口腔ケア”、“抗がん剤治療副作用”、“ストーマ・褥創”、“社会的諸問題”などの対応策を中心に、それらを専門とする医療技術者と患者会・支援団体とが協力し、より精度の高い助言の作成を目指す。

4) 「がんよろず相談 Q&A 集」、「学びの広場成果集」、「がん医療 DVD 集」の作成：

がんよろず相談 Q&A 集としては、三種類の冊子が完成し、全国のがん診療連携拠点病院などに配布された。医療費や就労問題、肝細胞がん患者の悩みや負担、治療の副作用である食欲の低下を克服するそれぞれの内容は、医学的な問題に加え、がん患者や家族の生活支援というジャンルに踏み込んだ、従来なかった患者・家族支援ツールとして評価されている。「学びの広場成果集」は、がん患者や家族の生活支援情報として、また、「がん医療 DVD 集」は、患者や家族が医療情報をわかりやすい形で入手するための手段として有効である。

5) 「WEB 版がんよろず相談 Q&A」の構築：

WEB 版がんよろず相談システムを用いることによって、これまで収集された患者の悩みや負担の軽減に役立つ様々な情報を、全国のがん患者・家族、医療従事者、医療相談担当者に積極的に提供することができる。具体的には、がん患者や家族による活用とともに、がん診療連携拠点病院の相談支援センター、各種医療機関の相談窓口、市町村・保健所・患者会・患者支援団体の相談窓口などの医療相談担当者にとって、本システムを駆使し、対話を通じて、患者や家族の求める情報を提供することが可能となる。このような利用法により、がん患者や家族にとってのデジタルデバイドと地域間格差を同時に解消することができる。また、今後、患者、家族支援に役立つコンテンツの充実、とくに悩みや負担に対する助言を掲載していくことで、がん闘う人々の新しい武器となることが期待される。

E. 結論

“がん患者の悩みや負担”を分類するための「静岡分類」が確立され、それを用いて「がん患者の悩みデータベース」が構築された。データベースとその助言は「WEB 版がんよろず相談 Q&A システム」によって公開された。同システムは、生活支援のための冊子、患者図書館情報、静岡県民のための医療福祉サービス情報をも掲載し、患者・家族のみならずがん診療連携拠点病院、医療機関、行政の健康福祉担当者にとっても患者・家族支援のための強力な武

器となった。

「がんよろず相談 Q&A 集」、「学びの広場成果集」、「がん医療 DVD 集」の発行も続き、がん患者のための新しいツールが蓄積された。

F. 健康危険情報

現時点では、患者、家族と接触することが無く、明らかな健康危険情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表 雑誌（外国語）

1. Kameya T, Tsukada T, Yamaguchi K., Recent advances in MEN1 gene study for pituitary tumor pathogenesis. In Molecular Pathology of the Pituitary. Front Horm. Res. 32: 265-291, 2004.
2. Yamaguchi K, et al., (Joint Study Group on the Cancer Sociology), The views of 7,885 people who faced up to cancer, (in English, Portuguese, Korean, Chinese), 2006.
3. Yamaguchi K, et al., (Joint Study Group on the Cancer Sociology), Everything you need to know about cancer: Collection of Q&A No. 1 (in English, Portuguese, Korean, Chinese), 2006.
4. Yamaguchi K, Ishikawa M, Kitamura Y, et al., Cancer patients' distress and inquiries : proposal of four-level classification based on consultation service and questionnaire survey. Cancer Science, 98:612-616, 2006.
5. Ondo K, Yano T, et al., The significance of serum active matrix metalloproteinase-9 in patients with non-small cell lung cancer. Lung Cancer 46, 205-13, 2004.
6. Yano T, et al., Is oxygen supplementation needed after standard pulmonary resection for primary lung cancer?, Ann Thorac Cardiovasc Surg, 12: 393-396, 2006.
7. Akamatsu H, Koseki M, et al., Giant adrenal myelolipoma :Report of a case Surg Today, 34:283-285, 2004.
8. Takahashi T, Sasaki T, et al., Nonmyeloablative allogeneic stem cell transplantation for patients with unresectable pancreatic cancer Pancreas, 28:65-69, 2004.

9. Nagai H, et al., Quality of Life of Terminal Patients with Cancer in Palliative Care Unit: Pscho-Oncology, 13, 27, 2004.
10. Li Y, Nagai H, et al., Aberrant DNA demethylation in promoter region and aberrant expression of mRNA of PAX4 gene in hematologic malignancies, Leuk Res, 30:1547-1553, 2006.
11. Tabuchi T, Nagai H, et al., A case of myelofibrosis with myeloid metaplasia with JAK2^{V617F} mutation who developed fibrous tumours in multiple organ, Eur J Haematol, 77:264-266, 2006
12. Ohno T, Nagai H, et al., Loss of O6-methylguanine-DNA methyltransferase protein expression is a favorable prognostic marker in diffuse large B-cell lymphoma, Int J Hematol, 83:341-347, 2006
13. Hagiwara K, Nagai H, et al., Frequent DNA methylation but no mutation of *IDA* gene in malignant lymphoma, J Clin Exp Hematopathol, 2007 (in press).
14. Maeda S, Hosokawa O, et al., Selective biliary cannulation using pancreatic guide-wire placement. Reply to Dr. Saad Endoscopy, 36:743-744, 2004.
15. Okamoto N, Yamashita K, et al., 5-year survival rate for primary cancer site at cancer-treatment-oriented hospitals in Japan. Asian Pacific J Cancer Prev, 7: 46-50, 2006.
16. Takahashi I, et al., Phase I study of S-1 and biweekly docetaxel combination chemotherapy for advanced and recurrent gastric cancer, Oncol Reports, 15: 849-854, 2006.
17. Shimizu J, Kawaura Y, et al., Gastric cancer occurred after coronary artery bypass grafting using the right gastroepiploica artery. Ann Thorac Cardiovasc Surg, 10:255-258, 2004.
3. 山口 建, 異所性ホルモン産生腫瘍—研究の意義—、日本臨床、62: 983-986、2004
4. 山口 建, がん患者さんの不安や悩みの実態、健康づくり、317: 18-19、2004
5. 山口 建, 他、がん患者の不安と悩み、治療、87: 1469-1475、2005
6. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、「がん体験者の悩みや負担などに関する実態調査報告書 概要版—がん向き合った7,885人の声」、2004
7. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、「がんよろず相談 Q&A 集 医療費編 経済・就労編」、2005
8. 山口 建, 他、(「がんの社会学」に関する合同研究班)、「がんよろず相談 Q&A 第2集 肝細胞がん編」、2006
9. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、「がんよろず相談 Q&A 第3集 抗がん剤治療・放射線治療と食事 編」、2007
10. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、医療情報をもっと知りたいとき (小冊子)、2006
11. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、自宅での療養生活の工夫 (小冊子)、2006
12. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、医療費控除のしくみ (小冊子)、2006
13. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、在宅でうけられる医療・介護サービス (小冊子)、2006
14. 山口 建, 他 (「がんの社会学」に関する合同研究班)、がんの治療費いくら用意すればいいの? (小冊子)、2006
15. 山口 建, 癌の基礎的理解、がん患者をめぐる社会状況、癌のリハビリテーション、辻哲也他 (編)、39-50、2006
16. 山口 建, 多職種チーム医療 総力戦でケア時代に、がんを生きるガイド「がん難民」にならないために、28-29、2006
17. 山口 建, バイオマーカー研究は今、ファルマシア、43:1、2007
18. 磯部 宏, 肺癌のセカンドオピニオン外来、呼吸器診療のコツと落とし穴、③びまん性肺炎患・肺腫瘍、工藤翔二編集、中山書店、2006
19. 古賀聡、矢野篤次郎、著明な炎症所見を伴った未分化肺癌の2例、胸部外科、57: 245-8、2004

雑誌 (日本語)

1. 山口 建, QOL重視のがん患者のケア、Bio Clinica, 19: 63 - 67、2004
2. 山口 建, がん医療の現場から一心通う対話を目指して、ほすびたるらいぶらり、29:1、2004

20. 矢野篤次郎、肺癌におけるステロイド予防投与、胸部外科、58：37-40、2005
21. 江上 格、他、肝がん治療後のフォローアップ診療、治療、58：37-40、2005
22. 光山昌珠、外来化学療法完遂のポイント-生存率向上に向けて、乳癌治療のコツと落とし穴 Pitfalls & Knack、232-233、2004
23. 光山昌珠、乳癌乳腺疾患-state of arts、第4章社会医学 乳癌治療におけるインフォームドコンセント別冊・医学のあゆみ、489-491、2004
24. 光山昌珠、「座談会」乳癌、死亡率低減に向けての新たな展開、治療学、39：189-197、2005
25. 光山昌珠、他、よくわかる乳癌のすべて、乳癌診療におけるインフォームド・コンセント、永井書店、1. 患者への説明：439-446、2006
26. 石田 裕二、『family-centered-care を目指してのチーム医療：チャイルドライフスペシャリストと小児科医の連携』：静岡がんセンター小児科、日本小児科学会誌、110：134、2006
27. 堀越泰雄、他、静岡県立こども病院における小児白血病・悪性リンパ腫の晩期障害、18：101-104、2004
28. 堀越泰雄、小児がん患者に真実を伝える、がん患者と対症療法、17：60-66、2006
29. 岡元るみ子、佐々木常雄、過敏症とその対策：がん化学療法の有害反応対策ハンドブック第4版、先端医学社、2004
30. 佐々木常雄、抗がん剤による事故とその予防：がん化学療法の有害反応対策ハンドブック第4版、先端医学社、2004
31. 佐々木常雄、G-CSF の適切な使用法：がん化学療法の有害反応対策ハンドブック第4版、先端医学社、2004
32. 佐々木常雄、IV. 消化器領域癌 総説 消化器癌の化学療法：エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック、メディカルレビュー社、2004
33. 佐々木常雄、胃癌 levofolinate+5-FU療法：エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック、メディカルレビュー社、2004
34. 佐々木常雄、胃癌 weekly PAC療法：エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック、メディカルレビュー社、2004
35. 佐々木常雄、大腸癌 levofolinate+5-FU療法：エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック、メディカルレビュー社、2004
36. 佐々木常雄、大腸癌 UFT+LV療法：エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック、メディカルレビュー社、2004
37. 佐々木常雄、膵臓癌 GEM療法：エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック、メディカルレビュー社、2004
38. 佐々木常雄、癌化学療法とは 癌化学療法と有害反応の現れ：癌化学療法 副作用対策のベスト・プラクティス、照林社、2004
39. 佐々木常雄、癌化学療法 最新のトピックス 新しい抗癌剤の有害反応：癌化学療法 副作用対策のベスト・プラクティス、照林社、2004
40. 佐々木常雄、癌化学療法 薬物有害反応のアセスメント 新しい薬物有害反応判定基準 NCI=CTC(National Cancer Institute-Common Toxicity Criteria)：癌化学療法 副作用対策のベスト・プラクティス、照林社、2004
41. 佐々木常雄、癌化学療法におけるリスクマネジメント 抗癌剤使用時の事故防止対策：癌化学療法 副作用対策のベスト・プラクティス、照林社、2004
42. 中根 実、佐々木常雄、癌化学療法におけるリスクマネジメント 資料「ビジュアル抗癌剤マニュアル」を作成してみよう！：癌化学療法 副作用対策のベスト・プラクティス、照林社、2004
43. 佐々木常雄、再発・進行胃癌に対する新しい多剤併用療法 LV/5-FUを含む胃癌の多剤併用療法、癌と化学療法、31、1952-1956、2004
44. 佐々木常雄、胃癌治療ガイドライン改訂について、癌と化学療法、31、1947-1951、2004
45. 佐々木常雄、第三章 胃癌の治療 5. 化学療法 (1)総論、臨床消化器内科、19：904-912、2004
46. 佐々木常雄、胃癌対策最前線 ガイドラインからみた胃癌治療対策、Frontiers in Gastroenterology、9：42-47、2004
47. 佐々木常雄、胃癌へのアプローチ その2 胃癌治療ガイドライン その有用性と問題点・最新の治療法をめざして、Medical Practice、21：14-21、2004
48. 佐々木常雄、エビデンスとガイドライン 胃癌治療のガイドライン・改訂版について、最新医学、59：210-218、2004
49. 岡元るみ子、佐々木常雄、過敏症とその対策：がん化学療法の有害反応対策ハンドブック第4版、先端医学社、2004
50. 佐々木常雄、抗がん剤による事故とその予防：がん化学療法の有害反応対策ハンドブック第4版、先端医学社、2004

51. 佐々木常雄、他、抗がん剤適正使用ガイドラインNo. 3 胃がん、肝がん、Int J Clin Oncol 11 Supplement : 1341-9625、2006
52. 佐々木常雄、他、がん化学療法のベストケア、照林社、エキスパートナース 2006. 11 臨時増刊号 : 1-146、2006
53. 永井宏和、リスク因子と予後 ー代理指標から特異的指標へー、最新医学、59:27-33、2004
54. 永井宏和、Rituximabによる有害反応と輸注時の注意点、血液・腫瘍科・特別増刊号「悪性リンパ腫のすべて」、49:405-409、2004
55. 永井宏和、持療法 Front Wave in Hematology、12:12-15、2005
56. 永井宏和、支持療法 Front Wave in Hematology、12:12-15、2005
57. 永井宏和、造血器腫瘍 ー基礎・臨床領域における最新の研究動向ー 病因・病態解析ー最近の展開ー 悪性リンパ腫 日本臨床、65:80-85、2007
58. 永井宏和、治癒可能な血液腫瘍ーびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫ーMedicina、43:1139-1142、2006
59. 木村秀幸、院内緩和ケアチームの現状と問題点、緩和医療研究会誌、14、23 : 37-52、2007
60. 大野真司、小野菊世他、インフォームドコンセントとdecision making、専門医に学ぶ乳癌治療のインフォームドコンセント、佐野宗明・高塚雄一(編)、金原出版、東京、39-53、2004
61. 大野真司、石田真弓、早期発見への道ー 乳癌体験者と歩む啓発活動乳癌診断のコツと落とし穴ー、霞富士雄(編)、中山書店、254-256、2004
62. 大野真司、阿比留衣子、聴く告知と“informed decision” 乳癌治療のコツと落とし穴、霞富士雄(編)、中山書店、22-23、2004
63. 大野真司、村上茂他、外来化学療法のクリニカルパス(2) 乳癌 コンセンサス、3(3): 136-139、2004
64. 片岡明美、大野真司、他、チーム医療 ー患者と家族が求める医療遂行のためのシステム構築ー 乳癌の臨床、19:441-447、2004
65. 大野真司、大島彰、チーム医療:よくわかる乳癌のすべて、飯野佑一、園尾博司(編)永井書店、475-480、2006
66. 大野真司、阿比留衣子、乳癌に対するチーム医療、日本臨床、64 : 570-574、2006
67. 神山泰彦、藤谷恒明、長井吉清、大腸癌に対する腹腔鏡下手術(LAC)は患者に優しい治療法か?ー周術期の低侵襲性、SF-36による術後QOL評価、根治性からの検討、39 : 523、2004
68. 細川 治、他、胃がん拾い上げにおける内視鏡検査の精度、42 : 33-39、2004
69. 細川 治、他、消化管粘膜下腫瘍の治療 2)外科治療、胃と腸、39:521-528、2004
70. 細川 治、他、早期胃癌術後残胃の内視鏡サーベイランス、胃と腸、39:985-995、2004
71. 海崎泰治、細川 治、他、残胃癌の臨床病理学的特徴と組織発生、胃と腸、39:1009-1019、2004
72. 吉村 信、細川 治、他、Helicobacter pylori感染に伴った鉄欠乏性貧血、日臨内科医会誌、19 : 72-78、2004
73. 細川 治、早期胃癌に対するESDの評価、胃と腸、41:110-111、2006
74. 大田浩司、細川 治、他、CEF followed Docetaxel による乳癌術前化学療法の安全性、有効性に関する検討、癌と化学療法 33:199-202、2006
75. 大田浩司、細川 治、他、まれな画像所見を呈した充実腺管癌の1例、乳癌の臨床 21:106-109、2006
76. 平山 功、阿部鋭子、癌性心膜炎、看護技術、53、2007 (印刷中)
77. 渡辺 敏、坂下美彦、「胃癌終末期の全人的緩和ケア」、消化器の臨床、7 : 256-259、2004
78. 大倉久直、腫瘍マーカーの半減期 Medical Technology、34 : 753-758、2006
79. 堀光雄、大倉久直、腫瘍マーカー検査の将来展望と適切な活用の仕方、検査と技術、34 : 1027-1032、2006
80. 山下浩介、知っておきたい今日の放射線治療、看護実践の科学、29 : 4-7、2004
81. 今井聡美、山下浩介、他、セカンドオピニオンを上手にとるコツ、セカンドオピニオン・ネットワーク編、1-24、2004
82. 宮城洋平、山下浩介他、わかりやすい腫瘍マーカー、かながわ・がんQOL研究会発行、2006
83. 今井聡美、山下浩介他、ガンのセカンドオピニオンをとるコツ(第2版)、セカンドオピニオン・ネットワーク編、2007
84. 吉田光、野口和典、腹水 ー低アルブミン血症を如何に改善させるか?如何なる症例が改善するか?ー、肝胆膵、54 : 93-101、2007
85. 井上賢一、乳がんの外来化学療法と在宅医療の現状と将来、癌と化学療法、33:595-598、2006
86. 石川 睦弓、自己決定を支えるためのポイント、メディカル出版、4 : 1107-1112、2006
87. 石川 睦弓、終末期におけるQOL向上のための課題と対応、4 : 1230-1239、2006

88. 渋谷昌三、小池眞規子、他、気分線画評定尺度 (MFAS) 作成のための基礎的研究、目白大学心理学研究創刊号、2、2006
89. 小池眞規子、渋谷昌三、藤巻貴之、リラックス感尺度作成の試み—大学生を対象として—、目白大学心理学研究、3、2007 (印刷中)
90. 高田由香、特集「がん治療後の患者ケア」がん患者のためのソーシャルワーク、治療、87 : 1620-1624、2005
91. 藤井裕治、本郷輝明、子どもたちへのインフォームド・コセント、臨床検査、48:695-699、2004
92. 藤井裕治、本郷輝明、死を余儀なくされる子どもへの対応、小児看護、27:1057-1062、2004
93. 塚越俊夫、子宮のがん・卵巣の悪性腫瘍 (婦人科がん治療後のケア)、治療、30 : 33-39、2006

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許の出願

発明の名称 類似文章検索プログラム
出願番号 特願2007-46926
出願日 平成19年2月27日

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

書籍：外国語

著者氏名	論文 タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版 年	ページ
Yamaguchi K, et al.	The views of 7,885 people who faced up to cancer	Joint Study Group on the Cancer Sociology	The views of 7,885 people who faced up to cancer, (in English, Portuguese, Korean, Chinese)		Japan	2006	
Yamaguchi K, et al.	everything you need to know about cancer: Collection of Q&A No.1	Joint Study Group on the Cancer Sociology	Everything you need to know about cancer: Collection of Q&A No.1 (in English, Portuguese, Korean, Chinese)		Japan	2006	

書籍：日本語

著者氏名	論文 タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版 年	ページ
山口建、 石川睦弓、 山下浩介、 小林国彦、 他	「がん体験者の 悩みや負担など に関する実態調 査報告書 概要 版—がんと向き 合った7, 88 5人の声」	「がんの社 会学」に関す る合同研究 班	「がん体験 者の悩みや 負担などに 関する実態 調査報告書 概要版 —がんと向 き合った7, 885人の 声」		静岡	2004	
山口建、 石川睦弓、 山下浩介、 小林国彦、 他	がんよろず相談 Q&A第1集 医療費編・経済 就労編	「がんの社 会学」に関す る合同研究 班	がんよろず 相談 Q&A第1集 医療費編・ 経済就労編		静岡	2005	
山口建、他	がんよろず相談 Q&A第2集 肝細胞がん編	「がんの社 会学」に関す る合同研究 班	がんよろず 相談 Q&A第2集 肝細胞がん 編		静岡	2006	

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

山口建、他	医療情報をもっと知りたいとき	「がんの社会学」に関する合同研究班	医療情報をもっと知りたいとき (小冊子)		静岡	2006	
山口建、他	自宅での療養生活の工夫	「がんの社会学」に関する合同研究班	自宅での療養生活の工夫 (小冊子)		静岡	2006	
山口建、他	医療費控除のしくみ	「がんの社会学」に関する合同研究班	医療費控除のしくみ (小冊子)		静岡	2006	
山口建、他	在宅でうけられる医療・介護サービス	「がんの社会学」に関する合同研究班	在宅でうけられる医療・介護サービス (小冊子)		静岡	2006	
山口建、他	がんの治療費いくら用意すればいいの？	「がんの社会学」に関する合同研究班	がんの治療費いくら用意すればいいの？ (小冊子)		静岡	2006	
山口建、他	癌の基礎的理解 がん患者をめぐる社会状況	辻哲也、他	癌(がん)のリハビリテーション	金原出版	東京	2006	39-50
山口建、他	がんよろず相談Q&A第3集 抗がん剤治療・放射線治療と食事編	「がんの社会学」に関する合同研究班	がんよろず相談Q&A第3集 抗がん剤治療・放射線治療と食事編		静岡	2007	
磯部宏	肺癌のセカンド オピニオン外来	工藤翔二	呼吸器診療のコツと落とし穴 ③びまん性肺疾患・肺腫瘍	中山書店	東京	2006	255
山口建、江上格、他	肝細胞がんの治療後のフォローアップ診療治療	山口建	治療	南山堂	東京	2005	1509-1514
光山昌珠	外来化学療法完遂のポイント-生存率向上に向けて	霞富士雄	乳癌治療のコツと落とし穴 Pitfalls&Knack	中山書店	東京	2004	232-233

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

光山昌珠	乳癌診療におけるインフォームド・コンセント 1. 患者への説明	飯野佑一 園尾博司	よくわかる乳癌のすべて	永井書店	大阪	2006	439-446
岡 元 る み 子、 佐々木常雄	過敏症とその対策	吉田清一 佐々木常雄 栗原 稔	がん化学療法 の有害反応 対策 (第4版)	先端医学社	東京	2004	313-320
佐々木常雄	抗がん剤による 事故とその予防	佐々木常雄 栗原稔	がん化学療法 の有害反応 対策 ハンドブック 第4版	先端医学社	東京	2004	322-329
佐々木常雄	G-CSF の適切な 使用法	佐々木常雄 栗原 稔	がん化学療法 の有害反応 対策ハン ドブック第4 版	先端医学社	東京	2004	358-362
佐々木常雄	IV. 消化器領域 癌 総説 消化 器癌の化学療法	有吉 寛	エビデンス に基づいた 癌化学療法 ハンドブック	メディカルレ ビュー社	大阪	2004	176-183
佐々木常雄	胃癌 leovorfolinate+ 5-FU 療法	有吉 寛	エビデンス に基づいた 癌化学療法 ハンドブック	メディカルレ ビュー社	大阪	2004	194,195
佐々木常雄	胃癌 weekly PAC 療法	有吉 寛	エビデンス に基づいた 癌化学療法 ハンドブック	メディカルレ ビュー社	大阪	2004	196,197
佐々木常雄	大腸癌 leovorfolinate+ 5-FU 療法	有吉 寛	エビデンス に基づいた 癌化学療法 ハンドブック	メディカルレ ビュー社	大阪	2004	198,199
佐々木常雄	大腸癌 UFT+LV 療法	有吉 寛	エビデンス に基づいた 癌化学療法 ハンドブック	メディカルレ ビュー社	大阪	2004	200,201
佐々木常雄	膵臓癌 GEM 療 法	有吉 寛	エビデンス に基づいた 癌化学療法 ハンドブック	メディカルレ ビュー社	大阪	2004	204,205

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

佐々木常雄	癌化学療法とは 癌化学療法と有 害反応の現れ	佐々木常雄	癌化学療法 副作用対策 のベスト・プ ラクティス	照林社	東京	2004	2-4
佐々木常雄	癌化学療法 最 新のトピックス 新しい抗癌剤の 有害反応	佐々木常雄	癌化学療法 副作用対策 のベスト・プ ラクティス	照林社	東京	2004	6-9
佐々木常雄	癌化学療法 薬 物有害反応のア セスメント 新しい薬物有害 反応判定基準 NCI=CTC(Nation al Cancer Institute-Comm on Toxicity Criteria)	佐々木常雄	癌化学療法 副作用対策 のベスト・プ ラクティス	照林社	東京	2004	16-18
佐々木常雄	癌化学療法にお けるリスクマネ ジメント 抗癌剤使用時の 事故防止対策	佐々木常雄	癌化学療法 副作用対策 のベスト・プ ラクティス	照林社	東京	2004	90-94
中根 実、 佐々木常雄	癌化学療法にお けるリスクマネ ジメント 資料「ビジュアル 抗癌剤マニユ アル」を作成し てみよう！	佐々木常雄	癌化学療法 副作用対策 のベスト・プ ラクティス	照林社	東京	2004	115-121
佐々木常雄	日本胃癌学会	胃癌治療ガイ ドライン 医師用	日本胃癌学 会	胃癌治療ガイ ドライン 医 師用	金原出 版	東京	2004
佐々木常雄	日本胃癌学会	胃癌治療ガイ ドライン 一般用	日本胃癌学 会	胃癌治療ガイ ドライン 一 般用	金原出 版	東京	2004
佐々木常雄	抗癌剤による事 故とその予防	森 武生	まちがいの ない抗癌剤 の使い方 (第2版)	三輪書店	東京	2005	1-7
佐々木常雄	化学療法時の注 意点 副作用 各薬剤の副作用 と dose limiting factor について	金倉 譲	臨床腫瘍内 科学入門	永井書店	大阪	2005	139-143

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

佐々木常雄	胃癌治療ガイド ラインの改訂	長谷川恒夫	コンセンサ ス癌治療	へるす出版	東京	2005	104-105
佐々木常雄	胃癌治療ガイド ライン	千葉 勉	消化器疾患 診療実践ガ イド	文光堂	東京	2005	833-836
永井宏和、 他	病気の広がり (病期分類)	堀田知光	インフォー ムドコンセ ントのため の図説シリ ーズ「悪性リ ンパ腫」	医薬ジャーナ ル社	大阪	2004	20-23
大野真司、 他	インフォームド コンセントと decision making	佐野宗明 高塚雄	専門医に学 ぶ乳癌治療 のインフォ ームドコン セント	金原出版	東京	2004	39-53
大野真司、 石田真弓	早期発見への道 ---乳癌体験者 と歩む啓発活動	霞富士雄	乳癌診断の コツと落とし 穴	中山書店	東京	2004	254-256
大野真司、 阿比留衣子	聴く告知と “informed decision”	霞富士雄	乳癌診断の コツと落とし 穴	中山書店	東京	2004	22-23
大野真司	がん治療とチ ーム医療	畑尾正彦	臨床研修指 導医のため のポケット マニュアル	羊土社	東京	2005	266-267
大野真司、 大島彰	チーム医療	飯野佑一 園尾博司	よくわかる 乳癌のすべ て	永井書店	大阪	2006	475-480
塚越俊夫	卵巣がん(悪性 卵巣腫瘍)	長廻紘	がんでは死 ねない	上毛新聞社		2004	315-328
山口建、 塚越俊夫、 他	婦人科がん治療 後の在宅支援ツ ールに関する調 査研究	山口建	がん患者の 心のケア及 び医療相談 の在り方に 関する研究- 平成16年度 総括・分担研 究報告書	厚生労働科学 研究費補助金 がん臨床研究 事業		2005	61-62
大倉久直	腫瘍マーカー	大久保昭行 井上智子	わかる検査 値とケアの ポイント	医学書院	東京	2005	415-434
大倉久直	腫瘍マーカー	日本臨床腫 瘍学会	新臨腫瘍学	南江堂	東京	2006	198-204

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

大倉久直	生化学的検査 1. 腫瘍マーカー	金澤一郎、北原光夫、山口徹、小俣政男	内科学	医学書院	東京	2006	99-100
大倉久直	シアリルルイスA抗原	Medical Practice 編集委員会	臨床検査ガイド 2007-2008	文光堂	東京	2007	868-8872
山下浩介、他	放射線の医療応用	大森豊明	生体物理刺激と生体反応	フジ・テクノシステム	東京	2004	451-461
宮城洋平、山下浩介、他	わかりやすい腫瘍マーカー	かながわ・がんQOL研究会	わかりやすい腫瘍マーカー	かながわ・がんQOL研究会	神奈川	2006	1-32
今井聡美、山下浩介、他	ガンのセカンドオピニオンをとるコツ (第2版)	セカンドオピニオン・ネットワーク	ガンのセカンドオピニオンをとるコツ(第2版)	セカンドオピニオン・ネットワーク	東京	2007	1-24
小池眞規子	1. カウンセリングの場「医療」 2. カウンセリングにおけるクライアントの活動	福島脩美	カウンセリングプロセスハンドブック	金子書房	東京	2004	13-14 41-49
小池眞規子	死に至る過程	大山博	高齢者支援のための精神医学	診断と治療社	東京	2004	135-145
小池眞規子	1. 日本におけるサポートグループ 2. コミュニケーションのトレーニング	ホスピスケア研究会	がん患者のサポートプログラム	青海社	東京	2005	22-32 73-77
小池眞規子	死	佐藤眞一	高齢者の心理がわかるQ&A	中央法規出版	東京	2005	190-195
小池眞規子 栗原幸恵	病院	日本カウンセリング学会	認定カウンセラーの資格と仕事	金子書房	東京	2006	72-77
小池眞規子	がんを知って歩む会ファシリテーター研修	三木浩司	死をみるこころ生を聴くこころII	木星社	福岡	2006	107-115
小池眞規子	リラクゼーションと臨床の実際	日本死の臨床研究会	死の臨床とコミュニケーション	人間と歴史社	東京	2007	37-40
矢野篤次郎	肺がん脅威の新世紀を生きるために	矢野篤次郎	肺がん脅威の新世紀を生きるために	文芸社	東京	2004	1-109

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

雑誌：外国語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>Yamaguchi K</u> , Ishikawa M, et al. ,	Cancer patients' distress and inquiries : proposal of four-level classification based on consultation service and questionnaire survey.	Cancer Science	98	612-616	2006
Suzuki S, <u>Egami K</u> ,	Comparative Study between DNA Copy Number Aberrations Determined by Quantitative Microsatellite Analysis and Clinical Outcome in Patients with Stomach Cancer	Clinical Cancer Research	10	3013-3019	2004
Yokoyama T, <u>Egami K</u> ,	Percutaneous and Laparoscopic Approaches of Radiofrequency -ablation treatment for Liver Cancer	J Hepatobiliary Pancreat Surg	10	425-427	2003
Takahashi, T. , <u>Sasaki, T.</u> , et al. ,	Nonmyeloablative allogeneic stem cell transplantation for patients with unresectable pancreatic cancer	Pancreas	28	65-69	2004
Kamisawa T, <u>Sasaki T.</u> , et al,	Thermo-Chemo-Radiotherapy for Advanced Gallbladder Carcinoma	Hepato-Gastroenterology	52	1005-1010	2005
Kawada K. , <u>Sasaki T.</u> , et al,	A Multicenter and Open Label Clinical Trial of Zoledronic Acid 4mg in Patients with Hypercalcemia of Malignancy.	Japanese Journal of Clinical Oncology	35	28-33	2005
T. Kawase, <u>H. Nagai</u> , et al.	CD56/NCAM-Positive Langerhans Cell Sarcoma: A Clinicopathologic Study of 4 Cases.	Int J Hematol	81	323-329	2005
Ohno T, <u>Nagai H</u> , et al	Loss of O6-methylguanine-DNA methyltransferase protein expression is a favorable prognostic marker in diffuse large B-cell lymphoma.	Int J Hematol	83	341-347	2006

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

Tabuchi T, <u>Nagai H</u> , et al.	A case of myelofibrosis with myeloid metaplasia with JAK2 ^{V617F} mutation who developed fibrous tumours in multiple organ.	Eur J Haematol	77	264-266	2006
Li Y, <u>Nagai H</u> , et al.	Aberrant DNA demethylation in promoter region and aberrant expression of mRNA of PAX4 gene in hematologic malignancies.	Leuk Res	30	1547-1553	2006
Hagiwara K, <u>Nagai H</u> , et al.	Frequent DNA methylation but no mutation of <i>ID4</i> gene in malignant lymphoma.	J Clin Exp Hematopathol			in press
<u>Nagai H</u> , et al.	Quality of Life of Terminal Patients with Cancer in Palliative Care Unit	Psycho-Oncology	8	127	2004
Koizumi K, <u>Kimura H</u> , et al.	Efficacy and tolerability of cancer pain management with controlled-release oxycodone tablets in opioid-naïve cancer pain patients, starting with 5mg tablets.	Jpn J Clin Oncol	34	608-614	2004
Morita T, <u>Kimura H</u> , et al.	Ethical Validity of Palliative Sedation Therapy: A Multicenter, Prospective, Observational Study Conducted on Specialized Palliative Care Unit in Japan	J Pain Symptom Manage	30	308-319	2005
Morita , <u>Kimura H</u> , et al.	Efficacy and Safety of Palliative Sedation Therapy: A Multicenter, Prospective, Observational Study Conducted on Specialized Palliative Care Unit in Japan.	J Pain Symptom Manage	30	320-328	2005
Kataoka A, <u>Ohno S</u> , et al.	Team approach to providing the multidisciplinary medical treatment derived by the patients and their family.	Breast Cancer	12	21-25	2005

成果の刊行に関する一覧表【平成16～18年度】

Okamoto N, Yamashita K, Yano T, et al	5-year survival rate for primary cancer site at cancer-treatment-oriented hospitals in Japan	Asian Pacific J Cancer Prev	7	46-50	2006
Ondo K, Yano T, et al	The significance of serum active matrix metalloproteinase-9 in patients with non-small cell lung cancer.	Lung Cancer	46	205-213	2004
Yano T, et al	Is oxygen supplementation needed after standard pulmonary resection for primary lung cancer?	Ann Thorac Cardiovasc Surg	12	393-396	2006
Yoshino I, Yano T, et al	Clinical characterization of node-negative lung adenocarcinoma: Results of a prospective investigation.	J Thorac Oncol	1	825-831	2006

雑誌：日本語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
山口建	QOL重視のがん患者のケア	Bio Clinica	19	63-67	2004
山口建	がん医療の現場から 一心通う対話を目指してー	ほすびたるらいぶらり	29	1	2004
山口建	がん患者さんの不安や悩みの 実態	健康づくり	317	18-19	2004
山口建、他	がん患者の不安と悩み	治療	87	1469-1475	2005
山口建	多職種チーム医療 総力戦で ケア時代に	がんを生きるガイド 「がん難民」にならない ために		28-29	200
山口建	バイオマーカー研究は今	ファルマシア	43	1	2007
磯部宏	がん生存者の医学的管理ー家 庭医に知ってもらいたいこと ー肺がん（術後）	治療	87	346-351	2005
塗師恵子、 磯部 宏、他	肺がん患者に対する短期グル ープ療法の効果	精神医学	47	1277-1283	2005
川野陽一、 江上格	C型慢性肝炎に対するインター フェロン療法著効12年後に 発症した破裂肝細胞癌の1切 除例	肝臓	48	48-56	2007